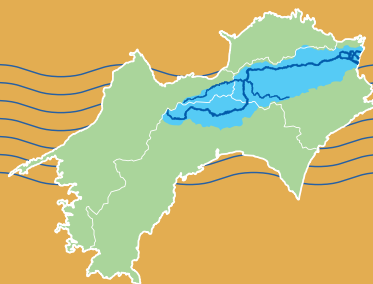


恵みの川 されど暴れ川

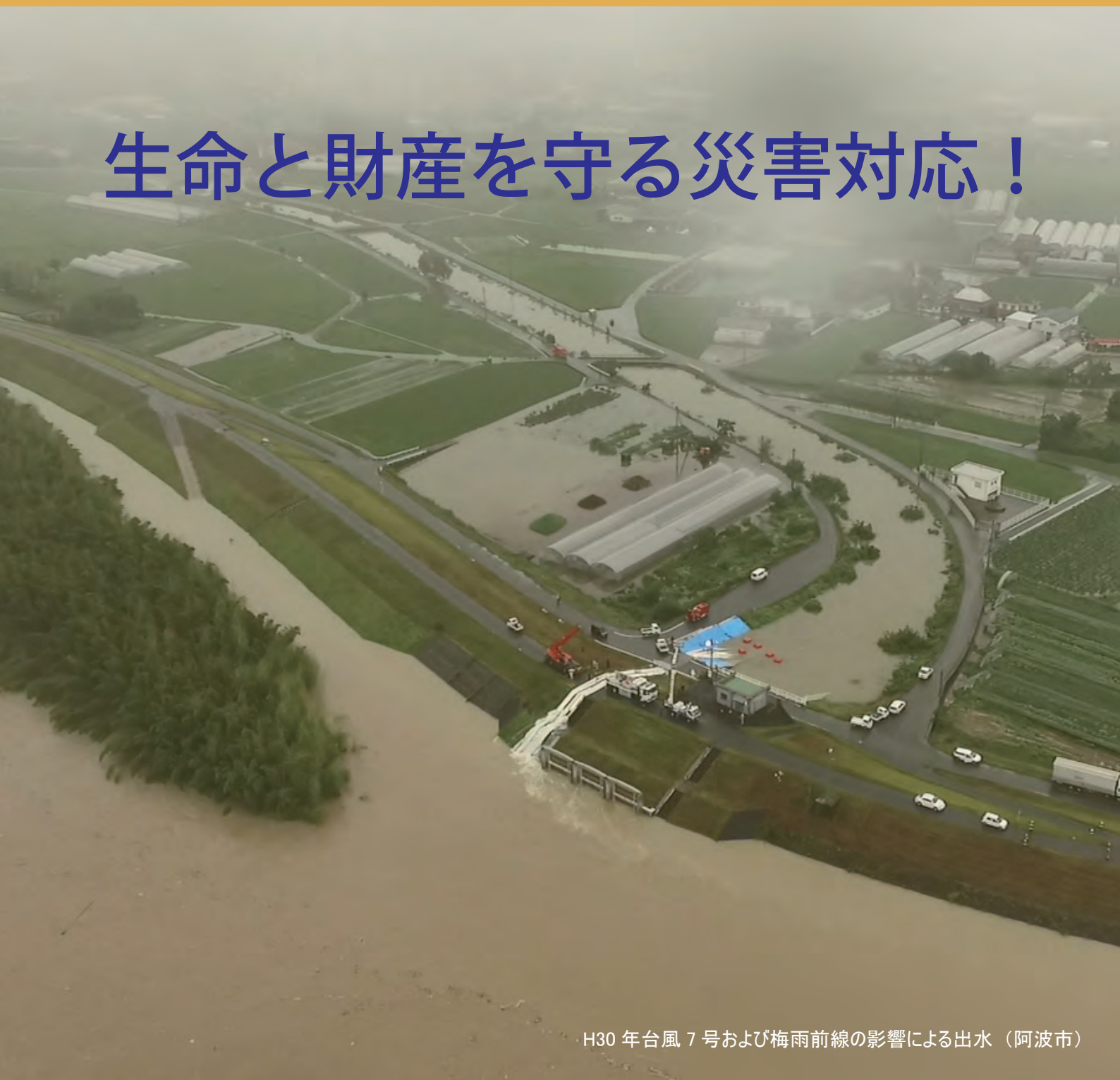
Our よしのがわ



2019 秋分号
Vol. 32

国土交通省 徳島河川国道事務所 発刊

生命と財産を守る災害対応！



H30 年台風 7 号および梅雨前線の影響による出水（阿波市）

■Vol.32コンテンツ

【連載】

- ・コウノトリ・ツルでつながる阿波の国
- ・吉野川歴史探訪 吉野川上流の堤防整備 その3
- ・吉野川講座 ～逃げ遅れゼロ社会へ！防災情報で命をつなぐ～

【特集】

- ・夢のかけ橋
～吉野川に架かる橋めぐり～ (案内図①)

【寄稿】

- ・吉野川を釣る！

【イベントだより】

- ・『吉野川フェスティバル2019』が開催されました！
～川と親しみ、川の魅力を知り、川と遊ぶための3日間～ (案内図②)
- ・『交流体験inよしのがわ』が開催されました！
～夏を満喫！学び、ふれあう吉野川水系！～ (案内図③)

【イベント情報】

- ・吉野川流域のイベント情報

【案内図】



【表紙写真の解説】

○出水時における排水ポンプ車の役割

台風や前線等の影響による、支川の氾濫などが原因となり、住宅地などで**浸水や冠水被害**が発生することがあります。そこで、排水ポンプ車を稼働させ、堤内（民地側）から堤外（川側）へ排水させることで、**内水被害の防止・軽減**を図っています。



堤内（民地側）



堤外（川側）



コウノトリ・ツルでつながる阿波の国

To the future with the stork and crane

この特集では、コウノトリやツル類を軸にした吉野川流域における生態系ネットワーク*の形成について、また、その取り組みが周辺地域の活性化や魅力ある地域づくりにつながるようお伝えしていきます。

※生態系ネットワークとは・・・野生生物が生息・生育する様々な空間（森林・農地・川・都市内緑地・水辺等）がつながる生態系のネットワークのこと。



今や鳴門市のシンボルとなったコウノトリ。

写真提供:JA徳島北

私達の身近な存在である川は、人々のくらしと自然環境をつなぐ役割を果たしています。

国土交通省では、河川整備の取り組みを通じて流域の市町村、NPO、企業など、多様な主体とのつながりを築いてきました。川の中の「多自然川づくり」から流域の「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」へと視点を拡大し、魅力的で活気ある地域づくりを目指しています。

吉野川流域は、兵庫県豊岡市周辺以外では全国初となるコウノトリの野外繁殖に成功しました。大陸から飛来・越冬するツル類の数が増加するなど、国際的に重要な生態系ネットワークの水辺環境拠点としても注目が高まっています。

コウノトリやツル類の生息は、地域活性化や経済振興等への展開も期待されます。

人々が、自然からの恵みを受け続けられる魅力的な地域づくりを行うことを目的に、平成26年度から平成28年度に「吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会」による多面的な観点からの検討が行われ「コウノトリ・ツルの舞う川辺づくり」などが提案されました。さらに、産学官民が連携・協働し、効果的の方策の検討と取り組みの推進を目的として、「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」が設立されています。

コウノトリやツル類がつなぐ阿波の国の魅力を再発見しましょう。

人との出会いが宝物

アオアヲ ナルト リゾート

アシスタントセールスマネージャー 塩崎桂子さん

「吉野川での思い出といえば、旧吉野川で水上スキーをしたり、写真家三好和義氏と吉野川をめぐる写真撮影会に参加したり、色々ありますよ」と笑顔で話してくださいました塩崎さん。鳴門にコウノトリがいることは、地域活性化の大きなツールになると考えています。



和歌山県のご出身。1991年、鳴門に開業したホテルの大阪本社に入社。1993年に鳴門に転勤後、企画広報を担当。2007年から4年間は同社が石川県加賀市山中温泉に開業した旅館の企画広報を担当しました。

自分の人生を振り返るきっかけとなったのは、2011年3月11日に発生した東日本大震災です。勤続20年を迎えた年でした。今までの経験を活かしつつ、自分の中で、違う世界も見てみたいと強く感じたそうです。

地域活性化への情熱

「観光のまち鳴門とはいわれているけど、もっと地域の活性化や交流人口が増えるようなことに携わりたい」という感情が湧きおこったという塩崎さん。

震災から3日後に、鳴門市地域雇用創造協議会が、中心市街地の活性化に関する仕事をする人を募集していることを知りました。最初は「誰か適任者を知りませんか」と相談がありました。「決まっていないなら私がやりたい!」と考え、上司に「やりたいことがあるんです」と、直談判。思いを汲み取ってもらい、いったんホテルを退職し、2011年4月から鳴門市で事業推進マネージャーとして勤務しました。

2年間、雇用の増加を念頭に、地域活性化や観光振興の仕事に従事。新しい鳴門の魅力を発信し、鳴門を訪れる観光客に少しでも長く滞在してもらうことで、新しい雇用が生まれると考えました。



ホテル内のゴッホのひまわりの部屋にて



アオアヲ ナルト リゾートの「アオアヲ」には、阿波藍などの「青」と「会う」を意味する大和言葉「アヲ」が組み合わされている。空と海の、大鳴門橋もよく見える。写真提供：塩崎桂子さん



旧吉野川で水上スキーをしていた頃の貴重なショット。川での遊びもアクティブに。写真提供：塩崎桂子さん

わくわくを生み出すのは、人との出会い

まず自分が動く！！

鳴門市地域雇用創造協議会実現事業の事業推進マネージャーになって取り組んだことが、滞在型観光促進事業でした。鳴門には、鳴門の渦潮、大塚国際美術館、四国八十八ヶ所一番札所 霊山寺など多くの観光地があります。塩崎さんがこの仕事に取り組んでいた2011年当時でも多くの観光客が訪れていました。しかし、泊まらずに他の観光地へ移動したり、日帰りする人がほとんどでした。「どうしてなのか？それは、とどまる魅力がないから。それならその魅力を作ればいいんだ！」と思い、塩崎さんは2つのことに着手しました。

- ① 地域の魅力を知ること
- ② 観光客のニーズを知ること

長年勤めたホテルでの経験を活かし、誰もが知っている観光地以外にも魅力溢れる場所を掘り起こそうと自分の足で市内を歩きました。大塚国際美術館など観光地でお客様と対面しての聞き取り調査は、1,134人に及び、その結果、観光客は通り一遍の見学だけでなく、地元の人々のふれあいや旅を通して非日常の新しい発見や感動を求めているということが分かったのです。

こうして生まれたわくわく体験

体験しやすいこと、移動しやすいことを念頭におき、鳴門公園に近く、宿泊施設も多い大毛島にスポットを絞りこみ、魅力あふれる体験プログラム作りがスタートしました。

一例を挙げると、干物作り体験やワカメの芯取り体験を通じて、干物やワカメの製造工程を知ってもらい、海を感じる小物が揃う雑貨店には販売だけでなく「貝殻を利用したフォトフレームなどを作るスペースを作ってみては」と提案しました。



青空と青い海に映える大鳴門橋



四国八十八ヶ所一番札所 霊山寺



まず、大毛島に絞ったわくわく体験が生まれ、その後、フラッシュアップして範囲を拡大し、わくわく体験鳴門が生まれた。写真は、鳴門市大麻町のサンコウファームのしいたけ狩り。写真提供:塩崎 桂子さん

今まで販売していただけたお店の従業員の方々もお客様とのふれあいが生まれ、励みになっているそうです。大毛島から鳴門市全域に地域を拡大し、『わくわく体験鳴門』と名を変えたこれらの体験プログラムは今も続いています。

現在勤務するホテルに戻ってからは、徳島県と藍の匠の監修のもと、阿波藍の魅力が堪能できる客室「阿波藍ルーム」の新設を企画するなど別の形で地域の魅力を発信しています。

コウノトリ学習会は大満足

このように、観光を通じて、鳴門地域の活性化に大きく関わってきたことから、令和元年6月21日には、『コウノトリ育む鳴門の人、環境、農業にふれるコウノトリ生息環境の現場学習会』に参加しました。

行く道すがら、れんこん畑で迷ってしまい近所の方に車で集合場所まで送ってもらったというおまけつき。スタートから地元の方の優しさに触れる出来事でした。「コウノトリには会えなかったけれど、大満足の学習会でした」と塩崎さん。

コウノトリに関わる方たちが、れんこん畑の中という豊かな自然の中で様々なことを教えてくれました。コウノトリは、羽根を広げると2mもの大きさになること、れんこん畑や田んぼの中にいるフナやカメを食べることなど実際にカメなどを見ながら教えてくれました。「えーっこんな硬いカメを食べてるの!」とびっくりしたそうです。

自分でこの場所にきて、「ああ、ここにコウノトリがいるんだなあ」で終わってしまいます。けれど、説明＝ガイドが加わることで満足度も倍となり、コウノトリも身近となります。今後の展開として、必ずしもガイドは、無料でなくても良く、有料にすることに



わくわく体験鳴門の多彩なプログラムは、Tokushima ebooksで見ることができ、鳴門市の観光パンフレット『歓喜の歌 渦巻く鳴門』にも抜粋で紹介されている。



徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 河口洋一准教授による、コウノトリの生態や餌となる生きものの説明。
写真提供:塩崎桂子さん

平成27年
の春に鳴門へ
やってきたよ



コウノトリの営業地域には、コウノトリを守るため、このような看板がある。

よってガイドもより研鑽を積むという効果もあります。ガイド料は、コウノトリの生息環境の整備に使うこともでき、そのことで、観光客は、コウノトリの生息の一助を担ったこととなるのです。

コウノトリの営巣地である大麻町周辺には、伝統ある酒蔵や醤油蔵のほか、多くの観光地があります。コウノトリ営巣地とこれらの見学、そこに鳴門の美味しいものが加われば、立派なツアーとなります。

地域活性化において、様々な取り組みが行われていますが、大切なのは、やりっぱなしにしないこと。持続可能な範囲で継続し、常にブラッシュアップし続けることだといいます。「人と出会い、話し、生まれる力がある」そのことを実践し、鳴門の体験プログラムを作り上げた塩崎さんの言葉には深みがあります。

コウノトリの里で、これからも多くの出会いが生まれることでしょう。「まだまだ可能性はたくさんありますよ」塩崎さんは、最後ににっこりとほほ笑みました。



コウノトリの営巣地周辺れんこん畑のひろがる風景



徳島県の食の魅力 SNSで発信する阿波ふうとスペシャリストでもある塩崎さん。「ワカメや鯛もおいしいけど、れんこん丼もおいしいです」と笑顔。
写真提供:塩崎桂子さん

わくわく立ち寄りスポット

塩崎さんが取り組んだわくわく体験プログラムに加わった海辺の雑貨店ISLAND。

「声をかけられるまで、体験スペースを作るなんて考えたこともなかった」とご主人の^{かん}さん。今では、老若男女多くのお客様が貝殻や砂、ガラスなどを使ったクラフトを楽しんでいます。楽しそうな顔を見ると、自分も楽しくなって、いろいろとアイデアが浮かんでくるそう。

入るだけで潮騒の音が聞こえてきそうな店内です。



瓶の中に広がる海。インテリアにも使えそうなさまざまな雑貨を作ることができる。ぜひトライしてみてください。

ISLAND(アイランド)

鳴門市鳴門町土佐泊浦字高砂186-16
モアナコースト敷地内
TEL&FAX 088-683-6225

吉野川歴史探訪 吉野川上流の堤防整備 その3

～堤防整備の進め方と川中島の改修～

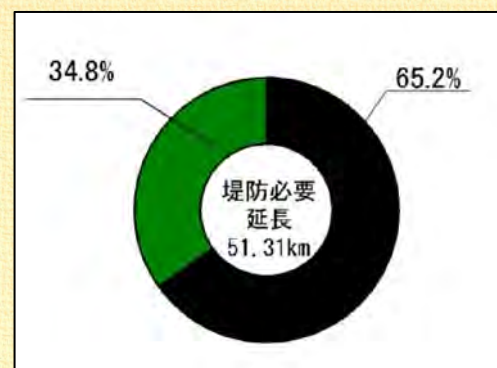
こんにちは。別宮川三郎です。台風 10 号豪雨により四国管内の河川では、各所で浸水被害が発生しましたが、命が失われるというような大事には至らず一安心です。出水期はこれから続きますが、油断せず洪水に備えましょう。

さて、先月号は、吉野川上流の堤防整備に必要な河道計画の策定、変更について探訪しました。今月号は、それら計画の下、堤防整備をどのように進めてきたのか探訪しましょう。

1. 堤防整備の状況 ～整備率 65.2%～

吉野川上流（岩津から池田間）の堤防整備は、これまで探訪したとおり、堤防整備により失われる遊水機能を早明浦ダムを建設し洪水調節で補うことを前提に、昭和 40 年度に着手しました。着手以降 50 年余りが経過し、決して、早い歩みとは言えませんが、約 33km の築堤を行い、着実に整備を進めてきました。平成 30 年度末の整備率は 65.2% であり、今後、約 18km の堤防整備を進めていく必要があります。

図 1 吉野川上流の堤防整備率



2. 堤防整備の進め方 ～美馬橋下流域から着手～

堤防の整備の進め方は、下流の箇所から上流の箇所に向かって進めることが一般的です。吉野川上流の堤防整備の進め方としても、美馬橋（写真 1）を境に上下流の 2 つに大きく区分して、美馬橋下流域の堤防整備を先行して進めることとしました。

美馬橋下流域約 14km 区間の進め方は、まず、洪水常襲地帯である舞中島箇所、国道 192 号との合併施工となる小島、太田、貞光箇所に着手するとともに、それらの箇所の対岸となる脇町第 2、郡里箇所に着手しました。そして、これらの箇所に目途がついた後に、切戸、脇町第 1、穴吹箇所に着手しました。（図 2 参照）

このように、吉野川上流の堤防整備は、区域として下流域から進めていますが、箇所毎に見た場合、必ずしも、下流箇所から進めているわけではありません。これは、整備の前提として、堤防整備により失われる遊水機能を新しく建設する早明浦ダムの洪水調節で補うこととしていたので、ダム建設に着手し完成の目途が見えた状況下では、下流への影響を考慮しつつも、水害の発生状況、資産状況等を総合的に判断して進めていたと考えられます。美馬橋下流域が概成した後は、上流域の西村中島、芝生、太刀野、加茂第 1 箇所に順次着手し、堤防整備を完成させています。

現在、沼田、加茂第 2 箇所の整備を進めていますが、残る箇所についても、吉野川水系河川整備計画（平成 29 年 12 月変更）において、予算状況など不確定な要因はありますが、概ね 10 年間で着手可能な区間として示しています。（図 3 参照）

図2 吉野川上流の堤防整備状況図

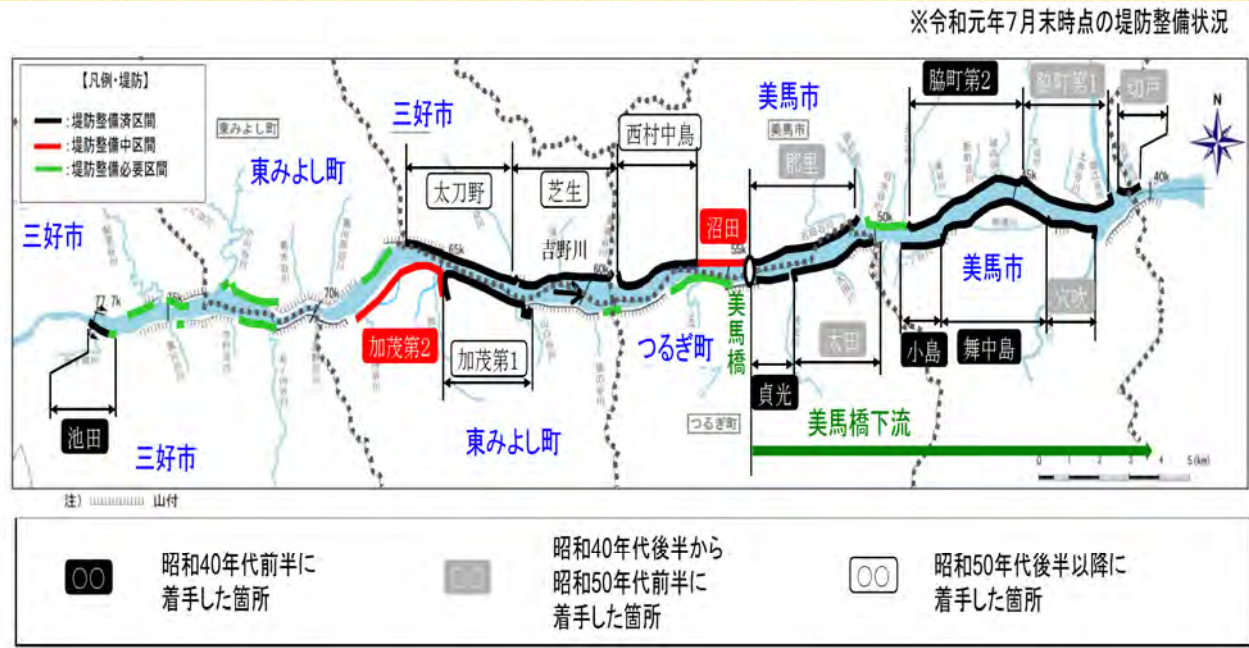
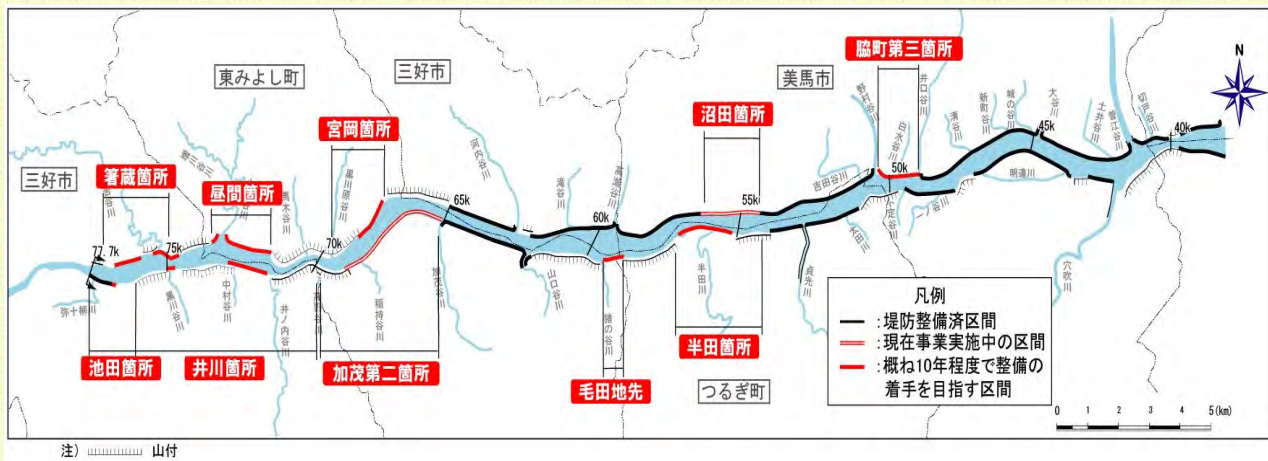


写真1 美馬橋（航空写真と地上写真）



図3 概ね10年間で着手可能な区間【吉野川水系河川整備計画（平成29年12月変更）】



3. 川中島の改修

かつて吉野川には、多くの川中島がありました。吉野川下流は、幕末から昭和の初めにかけて、大改修が行われ、かつて川中島であったところの面影は失われています。唯一、善入寺島（粟島）が、遊水地として国により全島買収され、今もその面影を残しています。（Our よしのがわ VOL 8、VOL 16 参照）

一方、吉野川上流はどうでしょうか。事業着手が昭和 40 年度であり、改修前の様子は、昭和 39 年の航空写真で詳しく知ることができます。多くの人々が暮らしの場とした代表的な川中島は、美馬市穴吹町の「舞中島」（写真 2）、美馬市美馬町の「中鳥島」（写真 8）です。川中島の改修は、そこに暮らす人々に直接大きな影響を及ぼすため、善入寺島など過去の改修においても困難を極めました。それでは舞中島、中鳥島の河川改修について探訪しましょう。

（1）舞中島の改修 ～島内の集落を堤防で守り安全な土地へ～

舞中島は、吉野川河口から約 45km 付近の川中島であり、南北 0.8km、東西 2.7km。面積は約 170ha であり、現在、約 540 世帯、約 1300 人が居住しています。

藩政期以前の舞中島は、吉野川南岸の「三谷」と地続きでしたが、天正 10 年(1582)の大洪水で南側が分断され川中島となりました。はじめは「中島」と呼んでいましたが、藩政期のはじめに村名を決めるにあたって三谷に「舞」という地名があり、この「舞」を上につけて「舞中島」と呼ぶようになりました。

舞中島は、その地形特性等から洪水との闘いを余儀なくされており、洪水の常襲地帯でした。特に、元禄 14 年(1701) 7 月の大洪水では、島内の家屋はすべて流れたと言われられており、川中島となつてからの悲惨な経験によって、図 4 のように輪中堤に似た竹林やかき寄せ堤が島をめぐってつくられたのです。島内には、現在も高地蔵、城構えの家など洪水遺跡が多く残されています。

写真 2 舞中島周辺航空写真（昭和 39 年）

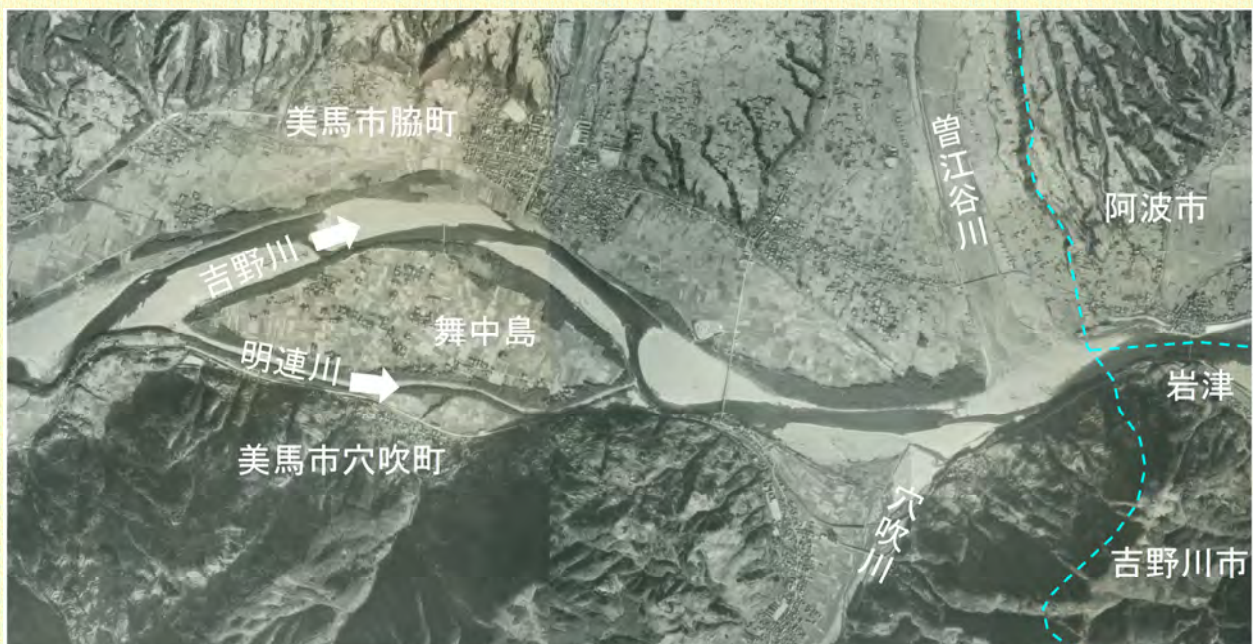


図4 明治34年 吉野川実測平面図及び横断図（筆者加筆）

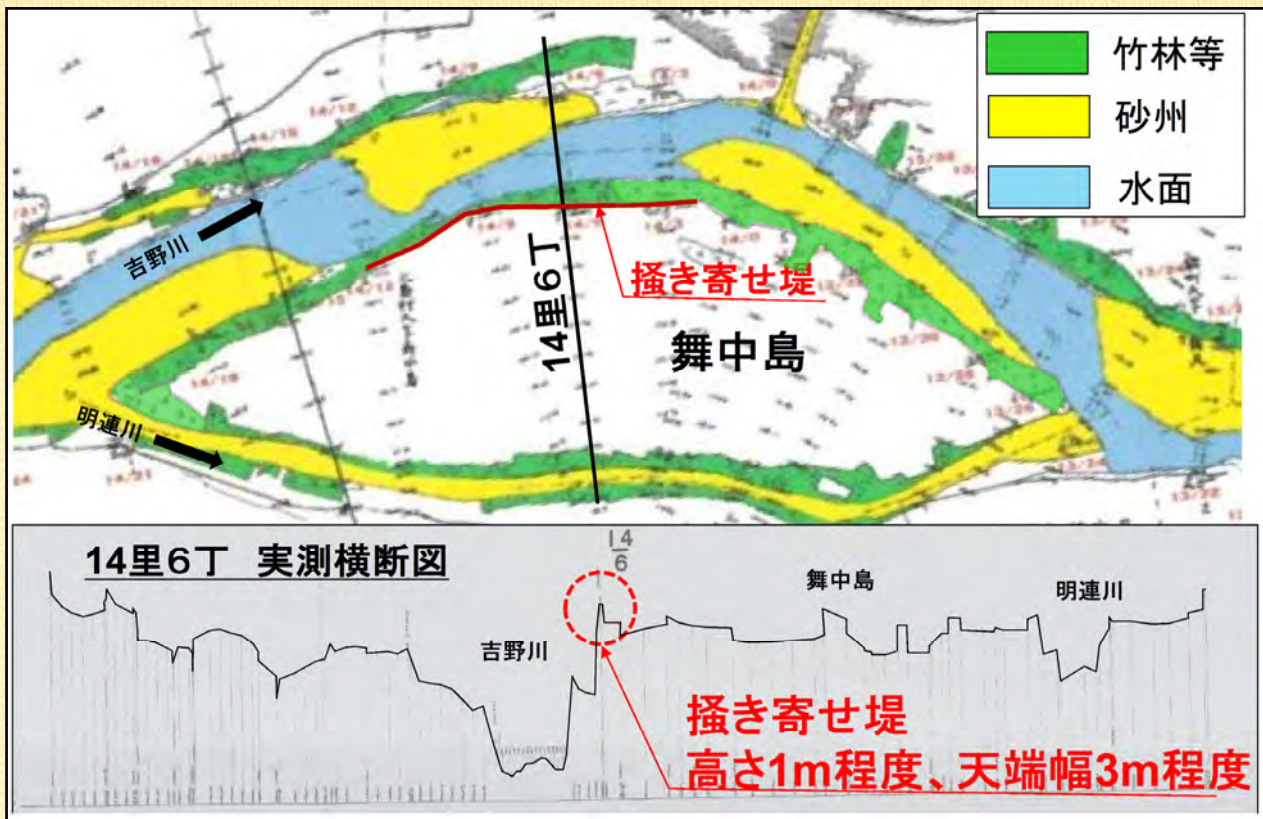


写真3 光泉寺高地蔵



写真4 城構えの家（大塚氏宅）



写真5 水防竹林



上流の堤防整備が決まり、最初に着手した箇所の一つが舞中島箇所でした。当時の洪水防御面積は約 170ha、家屋数約 300 戸と背後地としては極めて重要な地域でした。

一方、対岸の脇町第 2 箇所も舞中島箇所と同じく洪水常襲地帯でしたが、川沿いの低地に集落はなく殆どが田畑でした。

写真 6 は、昭和 49 年の工事中の航空写真です。舞中島の堤防の位置は、島の北側が吉野川に取り込まれましたが、島内の集落は新しい堤防によって、吉野川と切り離されて、かつて吉野川の派川であった明連川も流入口を堤防で締め切ったことから、治水安全度は飛躍的に向上し、洪水常襲地帯から比較的安全な土地へと変化を遂げました。

舞中島箇所の堤防工事は、昭和 44 年度に着工し、昭和 50 年度に完成しました。その間、昭和 49 年 9 月台風 18 号洪水（当時の戦後最大洪水）が発生し、上流の無堤箇所では深刻な浸水被害が発生しましたが、舞中島、脇町第 2 箇所では写真 6 のとおり、それぞれの下流端が霞堤の状態になっていたため、そこからの浸水はありましたが、上流部の堤防ができていたこともあり、洪水流で家屋が流されるようなことはありませんでした。

なお、写真 6 の浸水範囲は、堤防が締め切られた現在においても、内水被害が発生した場合には、浸水する恐れがあることを示唆しています。そこに暮らす人々はもとより、美馬市等関係機関においても再認識していただき、内水被害を助長しないような土地利用のあり方など、まちづくりを進めていただければと思います。

最後に、写真 7 は平成 29 年の航空写真です。かつて、川中島で洪水常襲地帯だったとは到底感じられません。しかし、現地に行けば、吉野川沿いの竹林、堤内地に残る高地蔵や城構えの家が、そうであったことを感じさせてくれます。皆さんも、観光地である「うだつの町並み」とセットで訪れてみてはどうでしょうか。景色もいいですよ。

写真 7 平成 29 年航空写真



写真 6 昭和 49 年航空写真（筆者加筆）



(2) 中鳥島の改修

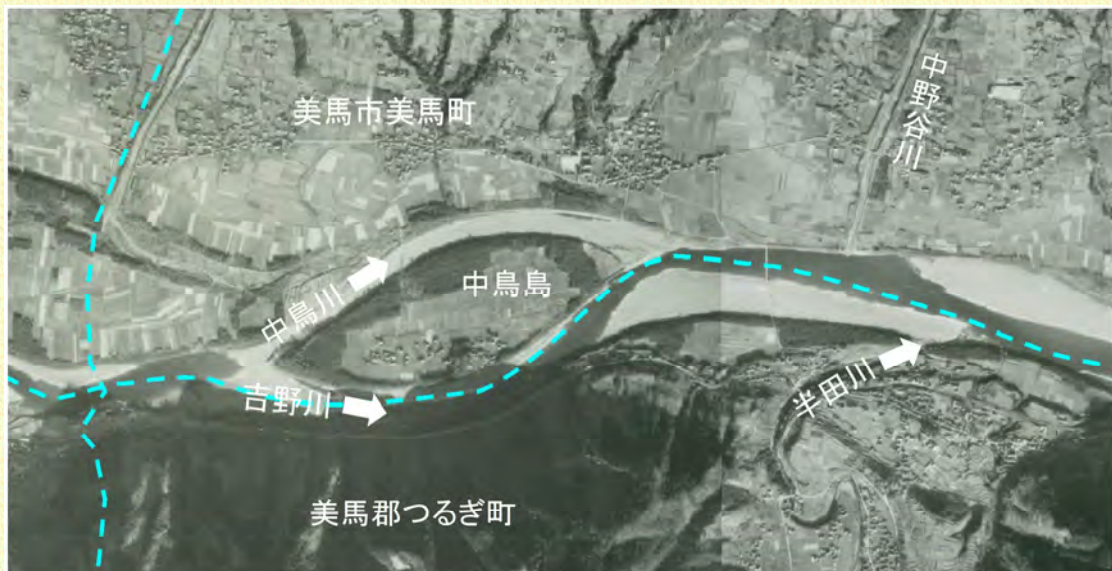
①洪水を安全に流すため、島を堤防で分断し全島民移転

中鳥島は、吉野川河口から約 58km 付近に存在した川中島ですが、今、その面影はありません。かつての島の面積は約 45ha であり、先ほど探訪した舞中島の 1 / 3 弱の面積です。中鳥は、もと南岸の半田町の飛地で、昭和 9 年まで半田町に属していましたが、学童通学等の交通上の問題等から、北岸の美馬町(当時の重清村)に町村区画が変更されました。

中鳥が半田町の飛び地になった過程を歴史的にみると、古来、中鳥島は、南岸と地続きで、中鳥の北側の流れが吉野川の本流でしたが、仁和 2 年(886)8 月の大洪水、承徳 2 年(1098)8 月の 2 回の大洪水は、南岸地域と切り離したと伝えられています。その後も本流が洪水毎に中鳥の南地域を遊水地帯化し徐々に浸食が進行しました。中でも元禄 14 年(1702)、正徳 2 年(1712)、享保 11 年(1726)の 3 度の大洪水は、中鳥を四国山地から完全に切り離しました。これは、洪水毎に、岩質の脆い阿讃山地の和泉砂岩系の土砂が、高瀬谷川等の北岸支川から大量に流出し、吉野川を南へ南へ押しやったことが原因であると考えられています。こうして、吉野川は中鳥の南を流れ本流化し、北側を流れる元の本流は、洪水時の流路となり河跡化していったのです。

中鳥島の河川改修が行われる以前には、島の南側にあたる比較的地盤が高いところに 28 戸の家屋がありましたが洪水時には、この中鳥島を含め美馬町一帯が浸水する洪水常襲地帯でした。このため、島の周囲に水防竹林やかき寄せ堤を築き水害を軽減してきましたが、洪水時には孤立化を余儀なくされ、周辺よりも一段高い場所にある伊射奈美神社を避難場所として、洪水と向き合いながら暮らしの場としてきました。

写真 8 中鳥島周辺航空写真(昭和 39 年)



このため、昭和 47 年に締切堤防方式で中鳥島の掘削により河積を確保する改修方式（図 5）を地元に提示しましたが、中鳥島の掘削は、農地の買収、島内全戸の移転を必要とすることに加えて、代替地、家屋移転先、休農補償の問題から、土地物件調査を拒否され、進展を見ないまま長らく懸案事項となっていました。

しかし、その後、昭和 49 年 9 月台風 18 号洪水（当時の戦後最大洪水）では全島が浸水する激甚な水害が発生しました。また、翌年の台風 5 号、6 号により浸水被害が発生するとともに、翌年の昭和 51 年 9 月台風 17 号洪水においても 25 戸が浸水する事態となりました。相次ぐ浸水被害により、島民の多くが川中島での孤立集落を解消して生活の向上を強く望むことになり、改修工事の早期着工への気運が高まってきました。

昭和 57 年には島民の代替造成地の移転先も決定し、昭和 61 年度より事業に着手し、約 33ha の用地取得、28 戸の家屋補償、延長約 3.4km の築堤、約 2.5km、約 250 万 m³ の河道掘削を総事業費約 100 億円で実施しました。事業期間は 20 年に及び平成 18 年度に完成しました。

②洪水常襲地帯から地域の要へ

西村中鳥箇所では、中鳥島に暮らす全島民の移転という苦渋の選択によって、築堤や河道掘削等の河川改修を行うことができ、背後地の美馬市美馬町の治水安全度は飛躍的に向上しました。また、その治水効果は、上流のつるぎ町毛田、三好市三野町、東みよし町でも発揮し洪水時の水位を低下させています。

また、築堤整備に併せて、背後地では、オートキャンプ場「四国三郎の郷」がオープンするとともに、河川敷でも「美馬市吉野川河畔ふれあい広場」や「三好市三野健康防災公園」が整備され一体となって、交流拠点の場として多くの人に利用され、地域の一大レジャー施設として発展に寄与しています。

さらに、近年は、西部健康防災公園基本構想として、「徳島県立西部防災館」等周辺の既存施設や現在整備している「中鳥地区河川防災ステーション」を軸として、平常時は「健康づくりのための仲間が集う拠点」、「にし阿波のにぎわい創出の場」として活用し、災害時は西部圏域の水害・土砂災害の「活動拠点」、南海トラフ巨大地震発生時の「後方支援措置」を行う防災拠点として活用することとしています。

かつての洪水常襲地帯は、河川整備により治水安全度が飛躍的に向上しただけではなく、周辺整備を行うことにより、地域交流拠点や防災拠点としての新たな役割を担う徳島県西

図 5 中鳥島の改修方式イメージ

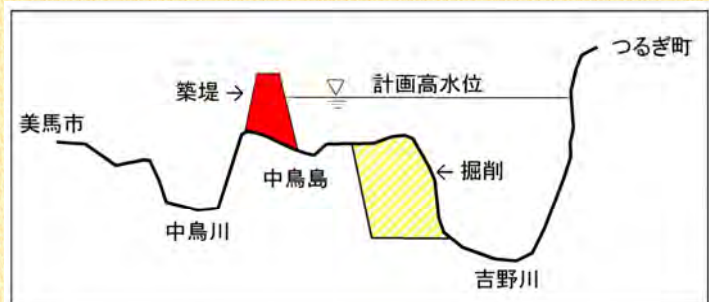
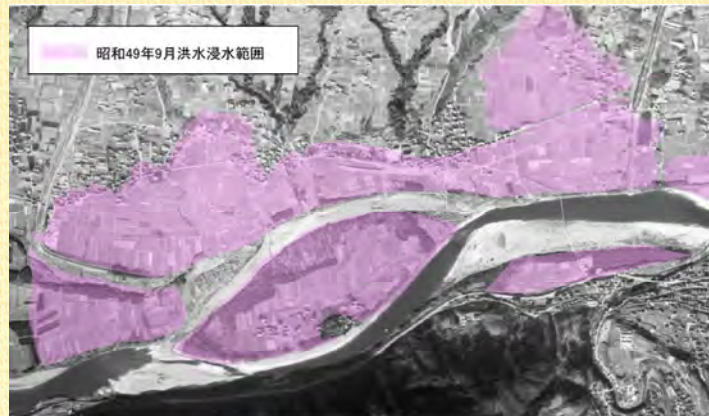


写真 9 昭和 49 年 9 月洪水痕跡図



部圏域の要として生まれ変わろうとしています。今、中鳥島だった頃の面影はありませんが、島内で最も標高が高く、洪水時には避難場所となっていた「伊射奈美神社元社」が吉野川に残されており静かに見守っています。

写真 10 平成 29 年航空写真（筆者加筆）



【参考 中鳥地区河川防災ステーション】

中鳥地区河川防災ステーションは、災害時の緊急復旧活動を行う上で必要な土砂やコンクリートブロックなどの緊急復旧用資材の備蓄、資材倉庫、ヘリポート等の整備を行うだけでなく、美馬市が水防センターを設置するなど、災害時の活動拠点となる施設で、現在整備を進めています。平常時は、防災講座や水防訓練などを通じた、「防災啓発の場」として利用するほか、健康増進のためのレクリエーション活動など、「健康」と「防災」の両面で、地域の交流・憩いの場として活用する予定です。

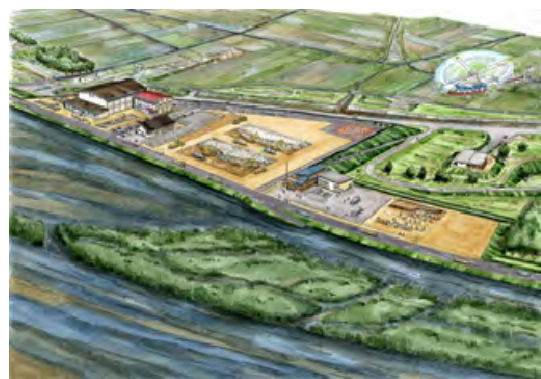


写真 11 中鳥地区河川防災ステーション
イメージパース

吉野川上流の整備の探訪は、これで終わりにさせていただき、次回からは、時間軸を少し巻き戻して、明治時代の支川の改修について探訪したいと思います。

吉野川講座

～逃げ遅れゼロ社会へ！ 防災情報で命をつなぐ～

大雨が降ると、川にたくさんの水が流れ込み、この水がさらに増えると川の水があふれ、街に流れ込んでいきます。街に流れ込んできた水は、勢いが強く、家も流されたりするので、川から水があふれる前に安全な高い場所へ避難しておくことが大切です。

そのため、いざという時にあわてず行動できるように、いつ何をするかを整理しておき、自分に適したタイミングを知っておくことが必要です。避難行動を判断するための情報はどのようなものがあるのか、学んでみましょう。

台風情報や水位・雨量等、様々な情報を下記のホームページから知ることができます。



気象庁ホームページ
<https://www.jma.go.jp>



川の防災情報ホームページ
<http://www.river.go.jp>



パソコン、スマートフォン・携帯電話で、「川の防災情報」ホームページや、その川を管理している河川事務所等のホームページにアクセスすると、水位観測所のリアルタイム情報、河川の洪水情報、ライブ映像などを確認できます。

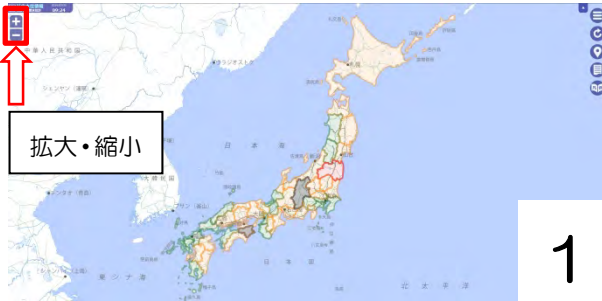
【警戒レベルに対する避難行動等、避難情報等】

警戒レベル	避難行動等	避難情報等	【警戒レベル相当情報（例）】
警戒レベル5	既に 災害が発生 している状況です。 命を守るための最善の行動 をとりましょう。	災害発生情報 [市町村が発令]	氾濫発生情報 大雨特別警報 等
警戒レベル4 全員避難	速やかに避難先へ避難 しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示（緊急） [市町村が発令]	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 等
警戒レベル3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人（高齢の方、障害のある方、乳幼児等）とその支援者は避難 しましょう。 その他の人は避難の準備を整えましょう。	避難準備・ 高齢者等避難開始 [市町村が発令]	氾濫警戒情報 洪水警報 等
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの 避難行動を確認 しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等 [気象庁が発表]	これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 [気象庁が発表]	

川の水位情報[危機管理型水位計[※]]では身近な河川の情報を、簡単に、きめ細かく、リアルタイムで確認できます。今年度、徳島河川国道事務所では3箇所を追加設置する予定です。

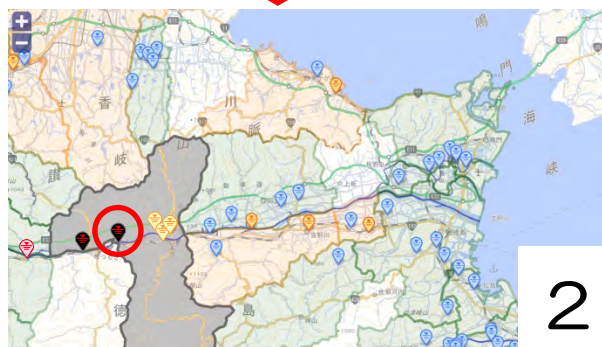
※洪水時の観測に特化した低コストで設置可能な水位計

【手順確認】



1

- 川の水位情報「<https://k.river.go.jp>」へアクセスすると、日本の全体地図（画像1）が表示されます。
- 左上にある+マークを押して、地図を拡大します。（画像2）（マウスのスクロールでも拡大・縮小が可能です）



2

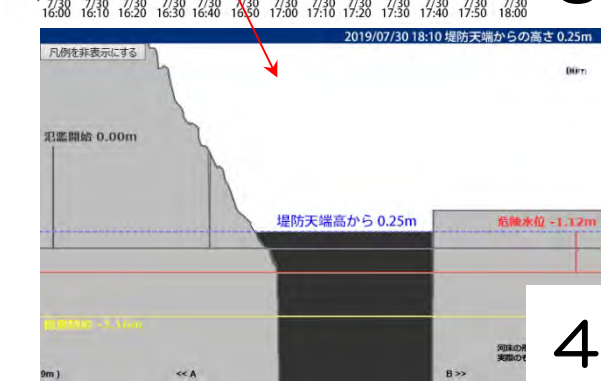
- 水位計のアイコンをクリックします。
- [凡 例]
- 氾濫開始水位超過
 - 危険水位超過
 - 観測開始水位超過
 - 平常水位
 - 欠測
 - 異常の疑いのある水位



3

- 水位グラフ（画像3）が表示されます。
- 画面左上の選択メニューをクリックすると、河川横断面図（画像4）、観測値一覧（画像5）が表示されます。

※表記の地図、水位グラフ、河川横断面図、観測値一覧表は手順確認のための参考画像です。



4

2019/07/30	18:10	堤防までの高さ	0.25m
2019/07/30	18:00	堤防までの高さ	0.30m
2019/07/30	17:50	堤防までの高さ	0.25m
2019/07/30	17:40	堤防までの高さ	0.28m
2019/07/30	17:30	堤防までの高さ	0.20m
2019/07/30	17:20	堤防までの高さ	0.00m

5

安全な場所へ移動するスピードは人それぞれです。自分に合うタイミングで判断ができるように、避難に役立つ情報を知っておくことが大切です。「逃げ遅れゼロの社会へ!」、私達が今できることから始めましょう。



夢のかけ橋

～吉野川に架かる橋めぐり～

特集「夢のかけ橋」の2回目です。今回は、徳島県内を流れる吉野川に架かる橋を「橋の長さ」に注目して紹介しました。今回は、橋の年齢、すなわち現存する吉野川に架けられた橋の年代順に並べ、どの橋が最も古いのか、どの橋が最も新しいのか、時代によってどのような構造の橋が造られたかなど、歴史から橋を比べてみましょう。

吉野川に架かる橋は、さまざまなタイプの橋があります。

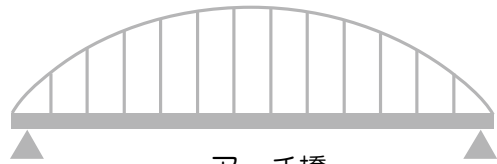
橋のタイプを下記の6つに分けます。いくつのタイプの橋を見つけることができるかな？



桁橋



トラス橋



アーチ橋



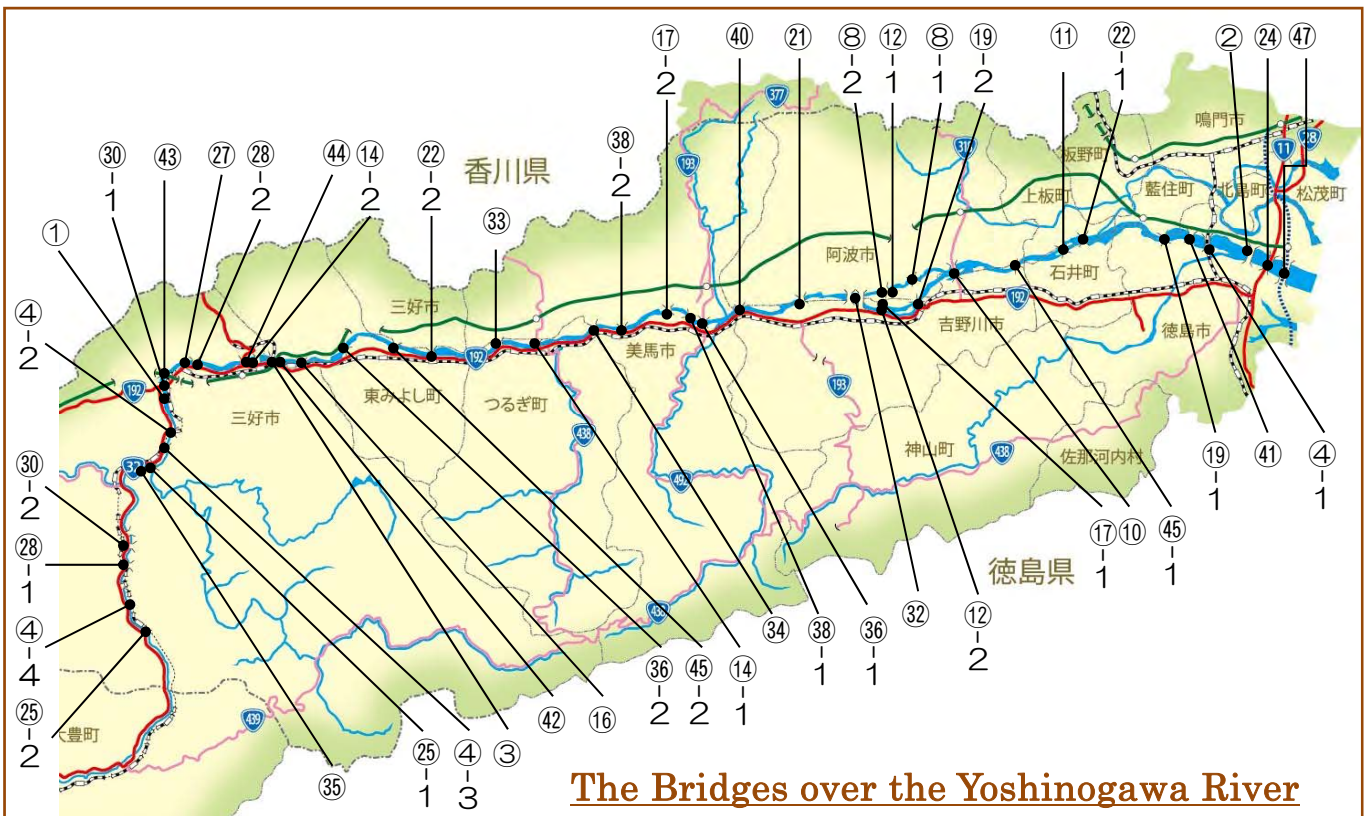
斜張橋



吊橋



コンクリート橋



年代順	橋梁名	取水橋・潜水橋	上部エタイプ	上部工形式(詳細)	完成年	西暦
1	三好橋	取水橋	アーチ橋、桁橋	単純鋼ローゼ橋、2径間単純鋼板桁橋	S2	1927
2	吉野川橋	取水橋	トラス橋	17径間単純曲弦鋼ワーレントラス橋	S3	1928
3	土讃線橋梁	取水橋	トラス橋、桁橋	4径間単純曲弦鋼ワーレントラス橋、16径間単純鋼板桁橋	S4	1929
4-1	JR高徳線橋梁	取水橋	トラス橋	2径間単純平行弦鋼ワーレントラス橋、12径間連続平行弦鋼ワーレントラス橋	S10	1935
4-2	第1吉野川橋梁 (土讃線)	取水橋	トラス橋、桁橋	単純曲弦鋼ワーレントラス橋、4径間単純鋼板桁橋	S10	1935
4-3	大川橋	取水橋	吊橋	吊橋(通行止め)	S10	1935
4-4	第2吉野川橋梁 (土讃線)	取水橋	トラス橋、桁橋	単純曲弦鋼ワーレントラス橋、9径間単純鋼板桁橋	S10	1935
8-1	大野島橋	潜水橋	コンクリート橋	潜水橋(単純PC桁橋、単純RC床版橋)	S27	1952
8-2	香美橋	潜水橋	コンクリート橋	潜水橋(単純PC桁橋、単純RC床版橋)	S27	1952
10	阿波中央橋	取水橋	トラス橋	13径間単純櫛形鋼ワーレントラス橋	S28	1953
11	高瀬橋	潜水橋	コンクリート橋	潜水橋(単純PC桁橋、単純RC床版橋)	S29	1954
12-1	千田橋	潜水橋	コンクリート橋	潜水橋(単純PC桁橋)	S30	1955
12-2	学島橋	潜水橋	コンクリート橋	潜水橋(単純PC桁橋、単純RC床版橋)	S30	1955
14-1	美馬橋	取水橋	トラス橋	6径間単純平行弦鋼ワーレントラス橋、3径間単純鋼ランガートラス橋	S33	1958
14-2	三好大橋	取水橋	トラス橋	ゲルバー式平行弦鋼ワーレントラス橋	S33	1958
16	美濃田大橋	取水橋	吊橋	3径間単純RC床版橋、二鉸式鋼補剛構吊橋、2径間単純RC床版橋	S34	1959
17-1	学北橋	潜水橋	コンクリート橋	潜水橋(単純RC床版橋)	S36	1961
17-2	脇町潜水橋	潜水橋	コンクリート橋	潜水橋(単純PC桁橋、単純RC床版橋)	S36	1961
19-1	名田橋	取水橋	コンクリート橋	12径間連続有ヒンジラーメンPC箱桁橋	S38	1963
19-2	川島橋	潜水橋	コンクリート橋	潜水橋(単純PC桁橋)	S38	1963
21	瀬詰大橋	取水橋	桁橋	9径間連続連続逆梯形形成箱桁橋、2径間単純逆梯形箱桁橋	S41	1966
22-1	六条大橋	取水橋	桁橋	12径間連続鋼板桁橋	S45	1970
22-2	東三好橋	取水橋	トラス橋	5径間連続平行弦鋼ワーレントラス橋	S45	1970
24	吉野川大橋	取水橋	桁橋	4径間連続鋼床版箱桁橋、12径間連続鋼床版箱桁橋(上下線とも同形式)	S47	1972
25-1	祖谷口橋	取水橋	アーチ橋	2径間単純ニールセン形式ローゼ橋	S48	1973
25-2	大歩危橋	取水橋	アーチ橋	単純二鉸式ローゼ橋、単純鋼板桁橋	S48	1973
27	敷之上橋	取水橋	吊橋	2ヒンジ式無補剛構吊橋	S49	1974
28-1	赤川橋	取水橋	吊橋	吊橋	S50	1975
28-2	池田ダム管理橋	取水橋	桁橋	9径間連続鋼板桁橋	S50	1975
30-1	池田大橋	取水橋	トラス橋、桁橋	2径間連続鋼ワーレントラス橋、単純合成鋼板桁橋、単純合成鋼箱桁橋、単純合成鋼H桁橋、単純PCI桁橋	S51	1976
30-2	国政橋	取水橋	吊橋	吊橋	S51	1976
32	阿波麻植大橋	取水橋	トラス橋	15径間連続平行弦鋼ワーレントラス橋	S54	1979
33	青石橋	取水橋	コンクリート橋	7径間連続PC箱桁橋	S58	1983
34	美馬中央橋	取水橋	コンクリート橋	8径間連続PC箱桁橋、2径間単純ボステント桁橋	S63	1988
35	国見山橋	取水橋	桁橋	2径間連続鋼床版箱桁橋	H元	1989
36-1	穴吹橋	取水橋	桁橋	7径間連続鋼箱桁橋	H2	1990
36-2	三三大橋	取水橋	桁橋	4径間連続鋼箱桁橋、3径間連続鋼箱桁橋、単純PCT桁橋、単純PC中空床版橋	H2	1990
38-1	穴吹自歩道橋	取水橋	コンクリート橋	2径間連続ラーメンPC箱桁橋、4径間連続有ヒンジラーメンPC箱桁橋	H4	1992
38-2	小島橋	取水橋	桁橋	6径間連続非合成鋼箱桁橋	H4	1992
40	岩津橋	取水橋	斜張橋	単純鋼床版箱桁斜張橋	H5	1993
41	四国三郎橋	取水橋	斜張橋、桁橋	3径間連続鋼床版箱桁斜張橋、単純鋼床版箱桁橋、3径間連続鋼床版箱桁橋、4径間連続鋼床版箱桁橋	H10	1998
42	吉野川橋 (徳島自動車道)	取水橋	桁橋	4径間連続鋼床版箱桁橋、6径間連続四主桁鋼板桁橋	H11	1999
43	池田へそつ湖大橋 (徳島自動車道)	取水橋	コンクリート橋	5径間連続PCバランスドアーチ橋	H12	2000
44	四国中央橋	取水橋	桁橋、コンクリート橋	5径間連続鋼板桁橋、2径間連続鋼箱桁橋、4径間連続PC中空床版橋	H15	2003
45-1	西条大橋	取水橋	アーチ橋、桁橋	8径間連続非合成鋼板桁橋、単純ローゼ橋、2径間連続非合成鋼板桁橋	H16	2004
45-2	角の浦大橋	取水橋	アーチ橋、桁橋	2径間単純ローゼ橋、4径間連続鋼箱桁橋	H16	2004
47	阿波しらさぎ大橋	取水橋	斜張橋、桁橋	4径間連続ケーブルグレット橋、10径間連続ラーメン板桁橋	H24	2012

※徳島県内で吉野川本川に架かる橋で比較しています。

まず、橋の機能として、増水時には水の中に水没して通れなくなるタイプの「潜水橋」^{せんすいきょう}（高知県などでは「沈下橋」^{ちんかばし}とも呼ばれています。）、増水時でも通れるタイプの「拔水橋」^{ぼつすいきょう}の2種類があります。潜水橋は、低い位置に架橋されることや、架橋長が短くできることから、安価な費用・短期間で造れるというメリットがある反面、増水時には通行が出来ない、また、増水時にゴミがかかり易く、また、欄干がないため転落事故も多く発生しています。一方、拔水橋は、増水時でも通行が出来、欄干もあることから安全に通行できますが、潜水橋と比べ建設費用が高く、長期間かかるというデメリットもあります。

それでは、吉野川に架かる橋を時代別に見てみましょう。戦前期（S元年～S20年）では、徳島県内の吉野川に現存する最も古い橋は、三好橋（S2年完成）です。この橋は、当初は吊橋でしたが、S62年に吊橋のケーブルに破損が見られたため、H元年に（上路式）アーチ橋に構造変更しました。この他にも、吉野川橋（S3年）や JR 高徳線橋梁（S4年）などのトラス橋等の長大橋が相次いで建設されました。その後、第2次世界大戦をはさみ、戦後～高度経済成長期（S21年～S48年）には、車の交通量も飛躍的に増加し、吉野川を渡る橋も多く架けられました。S30年代までは、増水時には水没して通行できない潜水橋もこの期間に多く架けられました。現存する潜水橋8橋のうち6橋は、善入寺島へ渡る橋です。この期間も、増水時でも通行可能な拔水橋であるトラス橋などの鋼橋が多く架けられました。また、吉野川でプレストレスコンクリート（PC）橋が架けられたのはS38年の名田橋（800m）が最初です。PC橋は、静荷重、動荷重などの荷重による引張応力を打ち消すように、あらかじめPC鋼材で圧縮力（プレストレス）を与え、引張力への抵抗を増加させた鉄筋コンクリートの橋です。

高度経済成長期以降から現在（S49～H30）は、様々な鋼橋や PC 橋が建設されています。この期間の特徴として、四国三郎橋（斜張橋と桁橋の併用）などひとつの橋において構造の違うタイプの橋も多く建設されています。これも、コンピューターなどの技術革新により容易に複雑な構造計算ができるようになったのも大きな要因です。

そこで、今回は橋の年齢に注目して、吉野川本川に架かる橋を古い順に並べ、時代の中で特徴ある名田橋と四国三郎橋を紹介します。



三好橋の東岸側には、昭和2年に架けられた吊橋の主ケーブルが今も残されています。

吉野川に最初に架けられたプレストレスコンクリート橋〈名田橋〉

この橋の上部工は、川の流れを遮ることなく、橋脚または橋台からの張出し架設が可能な画期的なディビダーク工法[※]が採用され、昭和38年（1963）2月に完成しました。

同工法で架設された橋梁では神奈川県の嵐山橋に次ぎ国内2番目である。この工法は、洪水が流れる箇所に仮設物を設置することがないので、年中施工が可能となりました。

※ディビダーク工法

コンクリート橋における現場打ち片持式架設の代表的工法で、仮設作業車を使って橋脚または橋台からスパン中央に向かって橋体をブロックごとに継ぎ足し、張り出し施工をしていくもの。

この工法は、ヨーロッパで開発された。



吉野川南岸の下流側から見た名田橋

斜張橋と鋼桁橋の併用橋〈四国三郎橋〉

徳島市中心部の慢性的な交通渋滞解消のため、放射環状道路網の整備の一環として、平成10年（1998）3月に開通しました。

橋梁の形式は、鋼床版箱桁橋であるが、北岸側の吉野川の水面を漕艇場として使用できるよう160mの支間長を確保する計画とし、高さ37mの主塔2本と、その両側に対照的に5段に配置されたケーブルが目进行斜張橋形式を採用しているのが特徴です。

橋を横から見ると主塔2本の間が広いのがよくわかります。



吉野川北岸の上流側から見た四国三郎橋

《参考文献》とくしま橋〔はし〕ものがたり 徳島県県土整備部道路整備課

いかがでしたか？今回は橋の架けられた年代や構造についてふれてみました。徳島県内の吉野川本川に架かっている橋で最も古いのは、三好橋としましたが、吊橋から現在のアーチ橋に変更されたため、アーチ橋が完成した平成元年と呼ぶべき意見もあるかもしれませんが、昔のトラスを残すこの橋は、昭和2年完成としました。

次回の特集テーマは、「橋の接合」です。何のことか分かりますか。ヒントは、鉄で造られた橋にあるものです。ご期待下さい！

吉野川を釣る！



(吉野川下流域の6月の風景)

こんにちは、さすらいの釣り人系河川管理者のNです。趣味のルアーフィッシングを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私は、ルアーでいろいろな魚を釣ることを趣味としていて、現在までに270種ほどの魚（淡水・海水・軟体動物含む）を釣っています。

今回、徳島に本当に久しぶりに勤務することとなりましたので、「吉野川でルアーにより何種類釣れるのか」に挑戦してみたいと思います。

現在12種達成ですが、今回は何種類釣れるでしょうか？

今年の初夏の釣果をご紹介します。

今回は、ここ4～5年はまっている穴釣りをご紹介しますと思います。

当然、普通の餌での穴釣りではなくルアーによる穴釣りです。

対象魚は、多種多様でアコウ（キジハタ）、ガガネ（カサゴ）、クロソイ、ムラソイ、タケノコメバル、アイナメ、クジメ、メバルのような根魚から、クロダイ、キビレ、カンダイのようなタイ類、アナハゼのようなカジカ類まで、釣ることが出来ます。

また、サイズもアコウ40cm、ムラソイ25cm、メバル30cm、クロダイ40cmと大きい物も釣れることがあり、油断は出来ません。季節は、春と秋が数多く釣れますが年中釣ることが出来ます。

道具仕立ては、穴釣り用の千円から2千円くらいの竿と2千円くらいの糸付きスピニングリールで、十分釣ることが出来るのでお手軽です。

ただし、カンダイ等の大物を狙おうと考える人は少し堅めの竿を用意することをお奨めします。

気をつけることは、竿の長さで、取り回しを考えると1.2～1.8mくらいが使いやすいです。短い方が釣りやすいのでなるべく短い竿を探しましょう！

ちなみに、私は、1.2mの手作り竿と昔バス釣りに使っていたベイト（両軸）リールを愛用しています。

ラインは、不意の大物用にフロロの2.5号を使用しています。

少し太いと思われるでしょうが、これでも30cm弱のメバルには、まあまあ切られます。

大型のアコウ、カサゴ（ガガネ）に至っては、強引に上げてこないと、穴に潜られてジ・エンド。

しかし、これ以上太くすると、食いが極端に悪くなる気がして、この太さに落ち着いています。

ジグヘッドも太軸を使用していますが、なかなか売っていないので、見つけた時は大人買いをしています。



少し見づらいですが今回のタックル

このようなタックルを使用しても、潜られることが良くあるので、水面とか穴の中央とかをまず狙い、そこで釣れない場合、だんだんと穴の際とか底とかを狙うようにするのがセオリーです。

次にポイントですが、なるべく外洋に面した潮の流れの当たるテトラ帯の方が大物・数も釣れます。

ただし、そういう所は皆さんも狙うため、スれていることが多いのでこればかりは、いろいろやってみて竿抜けポイントを探すしかありませんが、それもまた楽しいものです。

潮回りは、やはり大潮が良く、私の感覚では、満ち込みの潮がよく動いている時間が良いことが多いです。



こんなところを狙います。



ただ、ポイントにより引き潮が良い場所もあり、これも数多く通ってやってみるしかありません。

もう一つの条件は、風・波です。無風・波なしが釣りやすいのですが、こんな時は釣れません。

多少波だって、サラシ（白い泡）が出るくらいが好条件です。

ただし、安全第一ですので十分気をつけて波が被るようなら撤収しましょう。

穴は小さくて深い方が釣れる確率が高いように思います。ただし、穴が小さければいろいろなところにスれて切れることも多くなります。



見えにくいですがベイトです。

ながながと釣り方を書いて来ましたが、お待たせしました。
 それでは、実釣編です。遠征にも疲れが出て近場で、メバルの刺身でも狙おうと、出撃しました。
 この日は6月初旬の暑い日でしたので、日が陰る17:00から吉野川下流のテトラ帯に入ってみました。
 潮回りは、小潮で16:47干潮と上げ潮のタイミングです。風も気持ち良く吹いていて、波も丁度良い感じで魚の気配がぶんぶんしている状況です。
 三連ブロックの陰を狙うといきなり飛びついてきたのは、めずらしいタケノコメバルでした。香川では少なくなって放流事業が盛んです。



ファーストヒットは、19cmのタケノコメバル



底の方を狙い、22cmのガガネ

つづいて、少し底の方を狙ってみるとゴゴンと当たりがあり、穴に潜られながらもなんとか釣れたのは、まあまあサイズのガガネ(カサゴ)でした。
 穴釣りのキモは、一匹釣れたら必ずラインを確認することです。このときもスレてラインがザラザラになっていたのですぐに結び直します。

次は、少し浅い底の見える穴を探て見ると茶色い小さな魚が、ガンガン追っかけてきます。
 1匹目は、数回追っかけて来ましたが、ヒットに持ち込むことは出来ませんでした。
 それでも諦めずに、同じような所を狙うと今度は、しっかりヒットしました。
 釣れたのは、なんと小さなアイナメ(アブラメ)でした。私の自宅付近では、こんな小さなアイナメは最近お目にかかれなくて、びっくりしました。



浅い穴を狙い、15cmのアイナメ



アイナメに良く似た、24cmのクジメ

地球温暖化のせいか、北方性のアイナメは、瀬戸内では少なくなっており、最近30cm以下は釣れてなかったので、小さいものが釣れて、まだまだ世代交代が続いているのが分かり嬉しかったです。



続いて、良く似た魚のクジメも釣れました。違いは尾の先が丸いか直線なので、中には間違っている方もいるのでは？
 味はアイナメが上で食べ比べると良く分かりますよ……

ガガネなどを何匹か釣っているとまた違う魚が竿を絞り込みます。
 今度は、クロソイです。こちらも北方性の魚で昔は、大きなものも釣れていたのですが最近、小さくなり数も釣れなくなっている魚で、これも嬉しい出会いでした。
大きい物は刺身や鍋が最高の魚です。



少しサイズに不満がある 21 cm のクロソイ



冬場の救世主 15 cm のアナハゼ

最後に登場するのは、**冬場の救世主**ことアナハゼ君です。

この魚は、一年中浅場においてルアーが大好きです

他の魚は食いが渋い冬場にも、ルアーをガンガン追っかけてくれてポーズ逃れをするのに重宝する魚です。

ただし、食べるのには不向きで右の写真でもお分かりのとおり、**ミドリ**なのです。
 口だけでなく、骨、身に至るまでミドリなので、沖縄で出るようなミドリの寿司が好きな人はともかく、普通の人には食欲が湧かないと思います。
 ちなみに臭いはセロリの臭いです。



口の中、回りはミドリ

と、こんな感じで釣れ続け、最終的にはカサゴ7匹、タケノコメバル2匹、クロソイ1匹、アイナメ2匹、クジメ2匹、アナハゼ2匹、合計16匹と大漁でした。実釣時間は、17:00~19:30でしたが、写真ばかり撮っていたので、実質2時間弱でしたので上等です。

短時間で、これだけの種類が釣れるところは、四国でもあまりなく、吉野川の豊かさが海水魚にも恩恵を与えていることを実感させられます。

<タックルデータ>

ロッド：穴釣り用ロッド（1.2m自作）

リール：両軸リール 2000番

ライン：700㍑-ボソ 2.5号通し

リーダー：なし

ルアー：1.3g ズグハット +2 イチワム



今回の釣果です。19~24cmの各種魚です。何種類分かるかな？

私の地元では、カサゴは余り釣れずムラソイがメインでメバルもよく釣れるのですが、「所変われば品変わる」と言います。やはり、地域により釣れる魚が違うことを実感しました。

まあ、一度だけの実釣ですので今後の調査で変わるかも知れませんが、今後の穴調査に乞うご期待下さい。

いつもは、あまり持ち帰らないのですが今回は、撮影のため、多めに持ち帰りました。

今回は、遠征疲れのため、近場の確実に釣果が見込める釣りに終始しましたが、私の地元で楽しんでいる穴釣りが吉野川でも有効であることが実証され、満足のいく釣行となりました。

この投稿が掲載される9月からは気温も下がり、また、釣りの的には魚種も豊富となり良い季節になります。

穴釣りも良く釣れる季節となりますので、皆さんも誘い合って釣りに行って下さい。

今回、6魚種ゲット。通算18魚種となりました。さて次は何を狙おうかな？

釣り人Nのお魚紹介コーナー



<タケ/コメバルうんちく>

ススキ目 カサゴ亜目 メバル科 メバル属 タケ/コメバル

棲んでいるところ: 海水魚、北海道から長崎県の日本海・東シナ海沿岸、瀬戸内海等。

四国では、香川以外では、希少。私は今回で6匹目

大きさ: 四国では、30cm以下が多いが東北では50cmを超えるものもいる。

名前の由来: タケ/コが生えるころ美味しくなることから。東北ではベッコウソイといりルアーフィッシングの好ターゲット。関東から遠征して釣られている。

食べているもの: 動物食性で小魚、甲殻類、多毛類などを捕食する。

食べ方: 汁、煮付け、刺身(焼霜作り)、焼く(塩焼き)。旬は春

<カサゴ(ガガネ)うんちく>

ススキ目 カサゴ亜目 メバル科 カサゴ属 カサゴ

棲んでいるところ: 海水魚、北海道~九州南岸、東シナ海、八丈島

大きさ: 25cmほどになる。沖では30cmオーバーも、似た種類のウツカリカサゴはさらに大きい。

私の記録は、33cm

食べているもの: 動物食性で小魚、甲殻類、多毛類などを捕食する。

食べ方: 刺身、塩焼き、煮付け、唐揚げ 煮付けが定番だが、25cm以上あれば刺身が最高

ただし、全長の1/3くらいが頭なので大きいことが必要。沖の赤いのより波止の茶色が美味しい。

旬は秋から春

<アイナメ(アフラメ)うんちく>

ススキ目 カジカ亜目 アイナメ科 アイナメ属 アイナメ

棲んでいるところ:海水魚。浅い岩礁域、北海道～九州南岸、東シナ海

大きさ:通常35cm程度であるが、関東以北では60cmオーバーも！私の記録は、39cm

食べているもの:多毛類、甲殻類、軟体動物、小型魚類などを食べる動物食性。

食べ方:刺身、焼き物(木の芽焼、幽庵焼き)、鍋、味噌汁、煮付け、唐揚げ、天ぷら、パエリア

25cm以上あれば刺身もいける！

白身の高級魚。鮮度が落ちやすいので、必ず活け締めにした方がよい。旬は冬から初夏

※側線が5本もあり、落ちてくるものに対して良く反応する。

※一般的には、フラクリと呼ばれる針付きおもりにゴカイ等を付けて釣る。

<クジメうんちく>

ススキ目 カジカ亜目 アイナメ科 アイナメ属 クジメ

棲んでいるところ:海水魚、北海道～長崎県・五島列島の日本海沿岸、北海道～土佐湾の太平洋沿岸

大きさ:全長30cm程度になる。

食べているもの:多毛類、甲殻類、軟体動物、小型魚類などを食べる動物食性。

食べ方:アイナメと同様 25cm以上あれば刺身もいける！

鮮度が落ちやすいので、必ず活け締めにした方がよい。旬は冬から初夏

アイナメと混同されていることが多い。アイナメより味は劣るとされている。

<クロソイうんちく>

ススキ目 カサゴ亜目 フサカサゴ科 メバル属 クロソイ

棲んでいるところ:海水魚、水深5～100m岩礁域、北海道～九州北岸、東シナ海

大きさ:全長30cm程度になる。関東以北では、50cmオーバーも！

食べているもの:多毛類、甲殻類、軟体動物、小型魚類などを食べる動物食性。大きくなると魚も食べる。

食べ方:刺身、塩焼き、煮付け、カルパッチョ、汁(潮汁、鍋、味噌汁) 25cm以上あれば刺身・鍋が最高！

※北の方には、キツネメバル、タヌキメバル、シマソイ、ゴマソイとソイの仲間が沢山います！

旬は冬から春

<アハハゼうんちく>

ススキ目 カジカ科 アハハゼ属 アハハゼ

棲んでいるところ:海水魚、日本全国の沿岸域、漁港、テトラ帯によくいる。

大きさ:全長20cm程度になる。

食べているもの:多毛類、甲殻類、軟体動物、小型魚類などを食べるが魚食性が強い。

食べ方:好んで食べる人は、少ないと思われるが、体表のめめりがひどいので良く取ってから調理すべし、

刺身、味噌汁、天ぷら、唐揚げ (HPでは、食味よしの情報も)

※オスは、大きな生殖器を持つ

※似た種類にアサシアハハゼ、キリンアハハゼがいる。

※一年中釣れるため、冬場には重宝する。

MIZBERING
YOSHINOAWA

『吉野川フェスティバル 2019』が開催されました！
～川と親しみ、川の魅力を知り、川と遊ぶための3日間～

MIZBERING
YOSHINOAWA

7月26日（金）～7月28日（日）にかけて、吉野川グラウンド（吉野川橋南岸河川敷広場）にて、「川と親しみ、川の魅力を知り、川と遊ぶための3日間」をテーマとした『吉野川フェスティバル2019』が開催されました。

開催期間中は吉野川クリーンアップ大作戦、トンネル点検車搭乗体験などのイベントやステージを使ったエキサイティングライブ、阿波踊りなどが繰りひろげられ、また花火大会、ビッグバーベキュー、SUP マラソンなどが行われ多くの来場者で賑わいました。

徳島河川国道事務所ブース



▲トンネル点検車



会場全体がよく見えたよ！



▲土砂災害 3D シアター



▲降雨体験装置



◀パネル展

その他イベント





『交流体験 in よしのがわ』が開催されました！
～夏を満喫！学び、ふれあう吉野川水系！～



吉野川の良さを実感してもらうとともに、川を通じた交流を深めるため、「交流体験 in よしのがわ」が開催されました。

吉野川交流推進会議が主催となり、7月31日（水）に下流編（鮎喰川・梁瀬橋付近【徳島市入田町】）、8月2日（金）に中流編（青石橋【美馬市美馬町】）、8月4日（日）に上流編（早明浦ダム【高知県土佐郡土佐町】）、が開催されました！！



（下流編）



川魚がたくさんいたよ！

水辺が教室に早変わり



（中流編）



水面をスイスイ進むよ、
カヌー体験



ライフジャケットを着て、
上手に川に流される練習だよ



（上流編）



真夏なのに涼しい！？
早明浦ダムを見学



「大丈夫ですか～！ロープ！」
スローロープで人を助けるぞ！





吉野川流域のイベント情報！



イベント名	開催日	開催場所	内容
吉野川展 「絵図に描かれた吉野川と石井」	9月20日（金） ～ 10月17日（木）	石井町中央公民館	吉野川に関する重要な歴史的絵図資料を通して、石井町における洪水や治水の歴史について知ることができます。
とくしま まちなか花ロードproject 「花植え会」	9月21日（土）	藍場浜公園	徳島市がNPO法人 新町川を守る会とともに主催者となり、徳島市内中心部の道路沿いの植樹帯や花壇に花を植える活動です。
令和元年度 第2回 吉野川現地 （フィールド）講座 干潟観察会	9月28日（土）	吉野川大橋下流 南岸河川敷	吉野川河口の貴重なカニたちを観察し、吉野川の状態についての現状を知ってもらいながら、豊かな自然にも親しんでいただく「干潟観察会」を開催します。
吉野川歴史探訪 ～川の流れのあゆみ～	10月5日（土）	石井町中央公民館	吉野川の治水や利水に関する歴史についてお話いただきます。
第37回 ファミリーハゼ釣り大会	10月6日（日）	吉野川河口～名田橋	区間内で釣り上げた「ハゼ」10匹の総重量を競う大会。当日参加OK！
令和元年度 第3回 吉野川現地 （フィールド）講座 ナルトサワギク抜き取り	10月19日（土）	吉野川河口干潟	吉野川の問題を学びながら、吉野川河口干潟の海浜植物などを守るため、特定外来生物ナルトサワギクの駆除作業（抜き取り）を行います！
阿波吉野川マラソン大会	10月20日（日）	吉野川河川敷（ラグビーグラウンド） 徳島市上吉野町三丁目	今年は第41回目の大会！種目はハーフ、10km、5km、ファミリー(3km)の4コース。親子・ファミリーでの参加やマラソンデビューを応援しています！



▲干潟観察会



▲ファミリーハゼ釣り大会



▲ナルトサワギク抜き取り





秋分号いかがでしたか。
このコーナーでは誌面に掲載しきれなかった話題をお届けします。

阿波藍の魅力を発信する阿波藍ルーム



渦と波をイメージした作品で彩られた空間は
矢野藍秀氏が監修。障子の先には絶景が広がる。



8枚のふすまで構成された連続作品。
古庄紀治氏独特の世界観が楽しめる。



月の満ち欠けがデザインされたふすまは、
絵画のよう。

吉野川の洪水によって運ばれた肥沃な土は、藍作の繁栄を支えてきました。2020年東京五輪・パラリンピックの公式エンブレムに藍色が採用され、海外からも「ジャパン・ブルー」と呼ばれ、人気が高まっています。

阿波藍の魅力を発信することを目的に誕生したのが、阿波藍ルームです。アオアヲナルトリゾートと徳島県阿波藍魅力創造発信プロジェクト、阿波藍の匠達が協力して2019年2月に完成した客室です。「コウノトリ・ツルでつながる阿波の国」に登場していただいた塩崎桂子さんに案内していただきました。

阿波藍ルームは4室。県指定無形文化財「阿波藍の注染」の「紺屋古庄」6代目の古庄紀治氏ら、徳島を代表する匠達によって「鳴門の渦潮」「阿波踊り」などをテーマに手がけられており、それぞれ趣も違います。部屋に入ると、「うわぁ素敵」と思わず声のでるような非日常な空間で、本物の藍に囲まれて贅沢な時間が過ごせます。就寝時の目線も考えてふすまに描かれた藍の作品、部屋には藍染竹コップや阿波藍茶、藍に関する書籍も用意され、吉野川が育んだ藍の世界にひたる事ができます。

「Our よしのがわ」編集後記

秋分号、いかがでしたか。8月初旬に、交流体験 in よしのがわで吉野川支流の汗見川に行ってきました。川遊びの楽しさを体験したり、水難事故から身を守る方法を真剣に学ぶ子供達を見ることができて、嬉しい気持ちになりました。これからも、吉野川の魅力などについて、たくさんの人に伝えたいです。(宮)

[発刊] ; 国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所

[編集] ; Our よしのがわ編集委員会

〒770-8554 徳島県徳島市上吉野町3-35

TEL (088) 654-9175 (直通)

FAX (088) 654-9177

E-mail : skr-tokusa63@mlit.go.jp

HP アドレス <http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>

(注記) QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



【Our よしのがわ編集委員会】

- | | |
|--------|--------|
| ・池添 好巨 | ・福岡 典彦 |
| ・中塚 光 | ・矢野 慎二 |
| ・相田 晴美 | ・宮地 正彦 |
| ・浅田 聖一 | ・樽谷 英範 |
| ・川人 義功 | ・安永 一夫 |